

R4 地域協働研究（ステージⅠ）

R04- I -06 「盛岡中心市街地再開発と戦略的公共交通網の構築による持続可能な地方都市モデルの形成と検証【第2弾】－盛岡バスセンター・monaka再開発と、LRT・公共交通のベストミックス－」

課題提案者 もりおか交通まちづくりLRTフォーラム

研究代表者 総合政策学部 准教授 宇佐美 誠史

研究チーム員 戸館 弘幸・平野 佳則（もりおか交通まちづくりLRTフォーラム共同代表）ほか

〈要旨〉

本研究では、令和3年度に引き続き、盛岡市をモデルとして、交通まちづくりの方向性および持続可能な公共交通に関する検証をテーマに研究を行い、特にバス交通の実態に焦点を絞って取り組んだ。結果、バス交通の定時性、快適性に課題を有しているほか、交通系ICカードの普及についても取り組みが遅れている様子が窺えた。一方、先進地視察や公開フォーラム等により、コンパクトシティの在り方、公共交通の在り方について、広く啓発できた。

1 研究の概要（背景・目的等）

本研究では、盛岡市をモデルとして、交通まちづくり、すなわち都市の再開発と両輪としての、戦略的公共交通の形と仕組みを提起すべく、「市街地再開発と連動した交通まちづくりの方向性」および「持続可能な公共交通に関する検証」について取りあげた。

市街地再開発案件が目白押しである盛岡市の現況を踏まえ、今般、住みやすさ・暮らしやすさ・楽しさ、そして快適性・機能性というまち全体のあり方と交通政策を一体のものとして考える「交通まちづくり」の考え方の浸透を図るべく、研究に取り組んだところである。

2 研究の内容（方法・経過等）

【研究テーマおよび研究方法】

◆テーマⅠ：市街地再開発および公共交通に関する現況調査

- 1) 市街地再開発案件と、それに伴う面的発展の方向性を確認
- 2) バス交通の定時性、接続性、利用のしやすさ等を検証
- 3) これらを踏まえた、公共交通の現状と将来に向けた方向の検証および提言

◆テーマⅡ：各種イベント・学習会等を通じた、交通まちづくりという観点での移動・交流機能に関する啓蒙と意見抽出

- 1) 学習会、フォーラムを通じての、交通まちづくりの考え方の啓発、現状に関する課題抽出
- 2) LRTを含めた新たな交通手段のメリット、デメリット、将来に向けた可能性の検証
- 3) 公共交通ネットワーク再構築に向けた方向性の検討

◆テーマⅢ：都市の再開発と連動した戦略的公共交通の構築および持続可能な地方都市モデルの創造へ向けた市民・関係者のムーブメント形成と検証

- 1) LRT導入にかかる費用対効果の検証、盛岡市の交通まちづくりといった観点での持続的繁栄の方図の描写
- 2) 地域住民・関係各主体の連携・協働の促進と、地域の持続的発展に向かう各種まちづくり活動、啓発活動の継続展開

【研究経過】

◆市街地再開発案件と、それに伴う面的発展の方向性の確認
市街地再開発案件のリストアップを終了しており、現在内容を随時アップデートしている。

◆バス交通に関する実態調査

盛岡市役所の職員をはじめ、行政および民間の方々にご協力をいただき、150件のサンプルにより、バス交通の実態および今後の課題について分析することができた。

◆宇都宮市LRT視察…参加者10名

・実施日…令和5年1月7日（土）～8日（日）

・実施内容

○新設LRT施設見学

資料提供：宇都宮市建設部LRT企画課協働広報室

副主幹 黒崎隆 氏

○意見交換…宇都宮市におけるLRT新設の意義

宇都宮大学地域デザイン科学部社会基盤デザイン学科教授 大森宣暁 氏

◆盛岡のまちづくりと都市交通・LRTを考える公開討論会…参加者130名

・開催日…令和5年2月11日（土）

・開催場所…盛岡劇場メインホール

・プログラム

○基調講演 佐藤栄一氏（宇都宮市長）

○ディスカッション

コーディネーター：戸館弘幸LRTフォーラム顧問

アドバイザー：佐藤栄一氏（宇都宮市長）、

岩手大学理工学部 教授 南正昭氏

パネリスト：

（株）日刊岩手建設工業新聞社代取 宮野裕子氏

上田商店街協同組合理事長 中川善功氏

LRTフォーラム会員 中村喜一氏

岩手大学理工学部4年 小室祐人氏

3 これまで得られた研究成果

令和4年度は、特に「バス交通の実態調査」の結果を重視しつつ、以下のような結論を導き出すことができた。

- ▶ バスの定時性について、朝7時～9時の時間帯について、10分以上の遅れるとした状況が目立つ（図1）。なかでも、青山・みたけ方面から中心市街地、前潟方面から中心市街地、および都南方面から中心市街地区間の遅れが目立つ。
- ▶ 乗車快適度について、バス事業者によりバラツキもみられるが、運転が荒い、シートにガタがある、などといったことも含めて、快適さにも課題がみられた。
- ▶ 一方、バス交通の高度化のためのツールである、交通系ICカードの普及については遅れをとっている（図2）。乗客にとっては機動的な乗継割引等のサービスを楽しむことができ、バス事業者にとっては、乗降分析のためのサンプル積み上げに寄与する、交通系ICカードの普及が急がれる。
- ▶ 総体として、盛岡市および周辺地域が、将来にわたって持続可能な都市機能を維持発展されるためには、個々の交通モードの快適性の向上はもとより、交通モード相互の連携およびスムーズなトランジット機能を提供することにより、真に利用価値のある公共交通網をいかに展開させていくか、という点を追求していく必要がある。

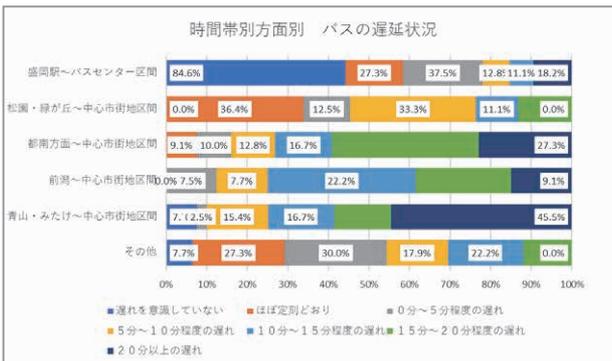


図1 バスの遅延状況（7時から9時）

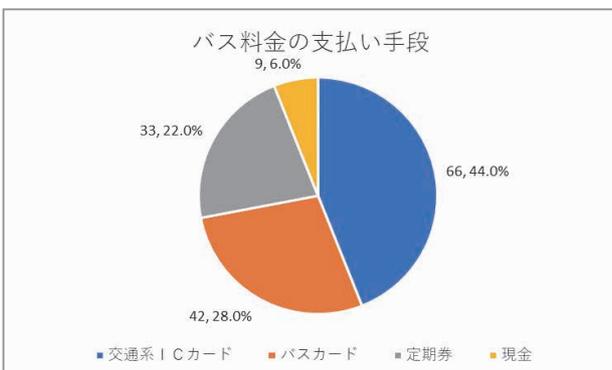


図2 バス料金の支払い手段

2月の公開討論会での宇都宮市の佐藤市長による発言からは、経験に基づいたまちづくりに対する熱い想い、その実現のためのLRT導入をはじめとする交通機関再編についてお話しいただいた。

筆者らが特に感じた重要なポイントを以下に示す。

- ▶ 子や孫の代の負担を減らすために、コンパクトで便利なまちづくりが必要で、そのツールとしてLRTが有効である。
- ▶ かつこ良くて便利な街で都市間競争に勝ち人口減少を緩やかにしたい。
- ▶ 効果的なプロモーションも含め宇都宮の魅力が高まっており、沿線の人口が増加し経済的にも価値が高まっている。

4 今後の具体的な展開

岩手県立大学地域協働研究として、このテーマについては、令和3年度、4年度と、2年度にわたって研究を行うことができた。しかしながら、目先の課題であるバス交通の再編、および当会が標榜しているLRTを軸に据えた公共交通網の再編まで到達させるまでには、クリアすべき課題が多い。

このことから、令和5年度以降は、以下のような活動を展開する予定である。

◆先進地視察

令和5年度の路面電車サミット開催予定地である宇都宮市を再度訪問し、同サミットへの参加、および宇都宮ライトレール開業後の現地視察をとおしてLRTに関するさらなる知見を積み上げる。

◆公開フォーラム

まちなかセッションおよび公開討論会を予定。各種調査結果、研究結果を報告するとともに、LRT先進地域の行政・交通事業者・まちづくり団体・学識者等を招き、広く市民への意識付けを行う。

◆月例のナイトセッションの継続開催

当会の定例行事である「ナイトセッション」を継続実施し、LRTないし公共交通全般に関する知識の補充および市民への啓発を図る。

なお、令和5年5月14日に開催されたフォーラム総会と勉強会では、あらためてフォーラムの目指す姿やそこに向けての取り組みについて活発な議論を行なった。

◆地域への普及啓発

こうした実践の中で、もりおか交通まちづくりLRTフォーラムをはじめ、まちづくりに積極関与するメンバー・体制が拡充していくことが予想される。そのことで、研究終了後にも、本研究での成果や経験・体制を基盤にして今後も持続的に都市運営・改善に関わっていく体制とムーブメントを形成していこうとするのが本研究の目的の一つでもある。